

●令和6年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「税金について知る」

私は先日、SNSで日本が新たにウクライナに支援金を出す、というものを見た。その金額は33億ドル、日本円にすると約5200億円ともなるそうだ。私はすぐにコメント欄を見た。やはり、ほとんどが反対派であって過激な発言をしている人もたくさんいた。ただ、私はそのコメントを批判しようとは思わなかった。こんなにも支援できるのなら困っている国民にあててほしいと思ったし、この元となっているのは税金なのだろうと考えて、それを払う人たちが反対しているのだから考え直す必要があると思ったからだ。

私はまず、なぜ支援金を出したのか、日本にメリットはあるのかを調べた。調べていくうちに、知らなかったことがたくさんわかった。まず、日本は今、DX・グリーン燃料・遠隔医療など主に7分野を発展させようとしている。そのために、日本は支援の条件に「日本とウクライナ両国の企業が参加する共同事業とする」ということを提示したそうだ。このようにするメリットは、ウクライナの自律的な復興と経済発展、両国においての新たな技術の発展、日本の海外展開への足がかりなどが挙げられる。私は、思っていたより支援に意味があって驚いたが、それ以上にこんなにも知らなかった情報があることに驚いた。そして、私は税金を含めた財政のことについてあまり関心を持ってこなかったなと感じた。

そう感じたので、私は国の歳出についても調べた。一般歳出を見てみると、一番目から社会保障、公共事業、科学振興と並んでいた。令和6年度の社会保障には37兆円以上もの費用がかけられていた。これは、ウクライナ支援金にもつながるものを感じた。今回のウクライナ支援金は約5200億円で、社会保障にかけた費用の71分の1ほどだ。こう数字化してみると、決して無茶な金額の支援でないとも言える。

全体像が見えてきて、思ったことがある。それは、多くの人が税金の使い道を知らず、また、知る機会も少ないことだ。実際に私もウクライナに巨額の支援金を出すという内容で言えば題名分くらいの情報量で善し悪しを決めていた。税金がどのように使われているのか、何のために使っているのかという事も記事やニュースで報道し、もっと多くの人が深いところまで知るべきだと思う。